

事例研究候補(案)

分野	地域	事例の概要	分析の視点・ポイント	取組期間
農業・農村	高知県馬路村 【人口:1,195人】	ローカル色を前面に出したゆず加工食品(「ごっくん馬路村」「ぼん酢しょうゆ・ゆずの村」等)の開発・販売で成功し、都市・農村交流、林業・木工などの分野に取り組みを拡大。	外部人材の活用…外部プロデザイナーの起用 知識・価値創造…産地直送、村のブランド化 情報戦略…村のブランド化とPR(ムラをまるごと売る)	1980年から 約26年
	山口県阿東町 【人口:8,422人】	阿東町内に立地する船方農場は、農業を基本として「0円リゾート構想」に基づく新しい形態の交流ビジネスの起業化に先駆的に取り組み、成功した。いわゆる「第6次産業(総合産業)」の事例。	知識・価値創造…第6次産業化 アイデア・技術の導入…農業経営の地域循環路線 情報戦略…都市農村交流マーケティング	1969年から 約36年間
	鹿児島県串良町 柳谷集落 【集落人口:約300人】	集落の自主的取り組みによる遊休農地を活用したサツマイモの生産、土着微生物を使った畜産排便悪臭公害の撲滅による集落環境の改善などを行い、PB芋焼酎の開発や外部との交流に発展。	問題意識の共有化…集落会議、遊休農地 外部人材の活用…銀行勤務を経てUターンした地域リーダーを 公民館長に抜擢し、各種事業を構想・展開 知識・価値創造…遊休農地での住民総出のカライモ栽培、 土着微生物の活用による畜産公害対策 組織化…協働が生んだ「自主財源」	1996年から 約9年
観光・交流	北海道釧路市阿寒町 (旧阿寒町) 【人口:6,796人】	阿寒湖温泉観光の再生を目指した住民主体のまちづくり活動を展開。活動の中核組織としてNPO法人を設立、「阿寒湖温泉再生プラン2010」を策定し、様々なプロジェクトに取り組んでいる。	問題意識の共有化…地域ビジョンの明確化 (阿寒湖温泉再生プラン2010) 外部人材の活用…専門家集団(JTB財団) 多様な主体の連携…女性の参画(まりも倶楽部)	2000年から 約5年
	長野県小布施町 【人口:11,460人】	「北斎館」をはじめとした歴史文化資源を活用し、町・民間・住民の協働による町並み修景を通して観光まちづくりを展開。	問題意識の共有化…町・民間・住民の協働による街並み修景 知識・価値創造…「北斎」という文化資源の活用、切妻・大壁造 といった伝統建築様式の活用	1976年から 約20年
	島根県江津市桜江町 (旧桜江町) 【人口:3,604人】	Uターン者と地元企業・行政が、ITベンチャーや高付加価値農業を創業し、それらが中核となって新規定住環境を整備し、都市からの人口定住を促進し、直近5年間の定住者が70世帯を数える事例。	外部人材の活用…Uターン者、前住地ネットワーク アイデア・技術の導入…独自の加工技術(桑茶)、 交流ビジネスモデル 情報戦略…ITの活用(Webマガジン)	1996年から 約9年
	高知県大月町柏島 【島人口:約530人】	漁業者、旅館・民宿、ダイバーなど多様な関係者が連携し、NPO黒潮実感センターを中心に「持続可能な里海」をキーワードとして環境学習をモチーフにまちづくりを実施。ダイビングショップの開設が相次いでいる。	外部人材の活用…高知大学研究者の参入 知識・価値創造…「海」という地域資源の価値発見、 環境学習による知識創造 多様な主体の連携…NPO「黒潮実感センター」、漁業者、 旅館・民宿、ダイバー等の連携 既存ストックの活用…廃校小学校をNPOの活動拠点に	1998年から 約7年
商業・文化	滋賀県長浜市 【人口:60,104人】	市民が設立し経営する会社による中心市街地全体の活性化事例。地域の文化的資源(黒壁銀行)の修復・ガラス館としての活用に始まり、地域コミュニティとの連携に発展して、地域で多くの起業を誘発している。	問題意識の共有化…中心市街地の衰退、自治文化(町衆) 外部人材の活用…東京芸大卒女性をガラス館の運営に採用 アイデア・技術の導入…歴史・文化的資源(長浜城、黒壁銀行) の活用 組織化…まちづくり会社(株黒壁、ガラス館)の発足	1988年から 約18年

市町村人口は国勢調査(平成12年)の値、合併市町村については合併前の値

国土交通省国土計画局作成